環境学習会

「環境学習会」×「eco サッカー教室」





秋田県産業廃棄物協会 ×ブラウブリッツ秋田



平成28年9月10日(土)に、青年部会の環境教育事業として、協会賛助会員の『ブラウブリッツ秋田』と共同で、秋田県内の小学生を対象とした、『第2回 ECOサッカー教室』を開催しました。昨年10月の開催に続き、2回目の開催となる今回も、江戸時代の3Rを題材とした環境教育と、ゴミの分別方法を取り入れたサッカーゲームの二部構成で行いました。





開催式には、山岡会長から出席いただき、参加小学生に向け、『サッカーを通して、環境にたいして、少しでも興味を持ってもらいたい』と挨拶をいただきました。また、ブラウブリッツ秋田の岩瀬社長からは、『生まれ育った秋田を、みなさんの手できれいにしながら、サッカーを通じて、将来は秋田に残り、盛り上げてほしい』と激励いただきました。

第一部の環境教育は、高島青年部会長が講師となり、スライドとビデオを使い、小学生でも飽きにくく、分りやすく、ユーモアを交えた講義となりました。現代よりも、ひとつひとつの物を大事につかった江戸時代のリサイクルにヒントを示しながら、『将来は他県に出ずに、故郷秋田で、環境に関わる仕事を考え、起業し、秋田を盛り上げてほしい。』と締めくくりました。



講義終了後、参加小学生からアンケートをたくさんいただきました。







続いて、グランドに移り、プロチームのコーチによるサッカーゲームを行いました。ゲームでは、ゼッケン(ビブス)に、可燃・不燃・資源などのイラストを貼り、同類のゴミ同士のパス回しをしながら、サッカーで大切な瞬時の判断力を身に着けるトレーニングをしました。





今回もブラウブリッツ秋田のプロのサッカー選手2名が参加いただき、子供たちは、目の当りにするプロの技に魅了されながら、環境を考えるあっという間の3時間となりました。





青年部会会員自身も、事業を通し、改めて環境を復習できる『自己研鑽』の場となりました。 今後も一過性のものとせず、継続事業として開催していきたいと思います。 9/21 掲載「環境新聞」

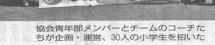
-ムとのコラボで「eco サッカー教室」を開催

平遊馬将也畠中佑樹

正しいゴールを判断してシュートする 「分別サッカーゲーム」を実施

秋田県産廃協の高島慶人青年部会長(右) ブラウブリッツ秋田の岩瀬浩介社長 2





秋田県産廃協青年部

を融合、他県から

8

注

ッカー教室は、昨年10 月に続いて今回で2回 月に続いて今回で2回 とブラウブリッツ秋田 運営を務め、サッカー のコーチたちが企画・ 協会青年部会メンバー 同協会とブラウブリ 小学3~6年生30人を招 参加。今年も秋田県内の

の皆さんとも一緒になっ

した。併せて同協会会員

ごみかをチームで判断し ラストカードを掲げ、イ

ラストが資源ごみか可燃

分別の必要性などに

子供たちに「今日は選手 山岡緑三郎会長も参加。

成 サッカー教室の2部構 のごみ分別を結びつけた 境学習と、グラウンドで イベントは室内での環 。開会式には同協会の てサッカーをしながら、

年部会長が講師を務め、 環境も学習してほしい」 では同協会の高島慶人青と呼びかけた。環境学習 「江戸時代の3R」 いて映像を交えて紹介し 現在の3Rの状 ず

施。子供たちは可燃ご となる同種類廃棄物同士 のパストレーニングを実 サッカー教室ではま 瞬時の判断力が必要

いて学べるのと同時に、 替わる趣向も取り入れ た。途中で、ゴールが入れ て正しい方にゴールする 高島氏はこの形式につ

さんに非常に賛同を頂 り。岩瀬氏は「協会の皆 式性 岩瀬氏は「協会の皆 そして環境保全活動 地域密着型の運営方

ョンで行うのはあまり例がない。また、サッカー教室はごみの分別を学習しながらサッカーの技術 場であるあきぎんスタジアムで開催した。産業廃棄物協会の事業として、小学生などを対象に環境 田」と共同で10日、秋田県内の小学生を対象にした「ecoサッカー教室」を同チームのホー も学べるよう工夫を凝らしたメニューとなっており、同様に環境とスポーツを合わせる取り組みを 教育を行う取り組みは他地域でも見られるが、秋田のようにプロスポーツチームとのコラボレーシ 模索する他県自治体から問い合わせが来るなど注目が集まっている。 秋田県産業廃棄物協会青年部会は、同協会会員でもあるプロサッカーチーム「ブラウブリッツ秋 の分別とサッ 力

ストの入ったビブス(ゼ ットボトル、生ごみ、汚 心にいるスタッフが、ペ のごみのイラストを付け れた衣服などのごみのイ セットした。グランド中 書かれた2つのゴールを ッカーゲームでは、通常 習を行った。続く分別サ ッケン)を付け、同じ種類 た人を探してパスする練 可燃ごみ「資源ごみ」と 境教育を合わせた取り組 がメディアに紹介された 断が必要なサッカーの練 同様にスポーツと環

V そこでスポーツの可能 浩介社長が同協会主催の ラウブリッツ秋田の岩瀬 ゲームルールが、秋田発 たという。高島氏は、 講演会に講師で招かれ で全国に広まってほし こうした環境サッカー 両者のかかわりは、ブ とする。 ではスタジアムでのごみ

がった。ルール自体も、 うしたアイディアが生ま 習を取り入れている。見でも多色ビブスによる練 ことで、リープロチーム ーにとって非常に重要な 見て判断するのはサッカ めにできないかというこ れた」と話す。「リーグ 別と同じということでこ て判断するのはごみの分 何か一緒に地域のた ことができる意義は大き るチームも多い。 ーと環境を同時に教える 地域の子供たちにサッカ は積極的に取り組んでい との考えた。

ることをやっていく。 地 性化、ブラウブリッツ秋 た。その同じゴールに が目指すものは同じだっ 域活性化と、方法は違う 田はサッカーを通して地 高島氏は、「われわれは

力して、地元秋田の振興 る。また、同協会もチー ブラウブリッツ秋田は、 とスポーツの良い化学反 1県とされる中で、 の賛助会員にもなってい 全国でも異例の、同協会 プロスポーツチームでは 応を期待したい」とする。 方創生課題保有ナンバー ている。今後も両者は協 のパートナー会員になっ

道に続けることが大切